一級河川天竜川水系一雲済川（天竜川下流中遠ブロック）河川整備計画【変更原案】 概要図

静岡県

今までの経緯

一級河川天竜川水系一雲済川
（天竜川下流中遠ブロック）
河川整備計画

平成14年８月
静岡県

第1回流域委員会
【令和2年3月31日】
・設立と概要説明
・流域及び河川の現状等

第2回流域委員会
【令和6年3月27日】
・目標と対策
・整備メニュー原案
・変更原案の作成

河川整備計画【変更素案】

河川整備計画【変更原案】

河川整備の目標

整備対象期間　今後、概ね20年間（必要に応じて見直しを行う）

洪水による災害の発生防止又は軽減に関する目標

○一雲済川では、既往最大の被害をもたらした七夕洪水（昭和49(1974)年７月）と同規模の洪水（年超過確率1/30）を安全に流し得る整備とする。
○上野部川では、早期の治水安全度向上を図るため、人家連坦区間上流において放水路の整備を行い、年超過確率1/5の規模の降雨により発生する洪水を安全に流し得る整備とする。
○市街化の進展による洪水被害の防止や整備水準を上回る洪水による被害を最小限に抑えるため、関係機関と連携を図りながら防災体制の充実を図る。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

○河川の水利用については、これまで大きな渇水被害はなく、既得利水の取水に支障は生じていない。
○今後も流域の水利用に支障をきたさないよう、関係者と連携し、適正な水利用及び現状の流水の機能の維持に向けた合理的な水利用を継続することを目標とする。
○河川の空間利用及び地域との関わりについては、一雲済川が地域とともに歩んだこれまでの歴史を踏まえ、地域住民や河川愛護団体ならびに地域の子供たちが、今後も川に親しみ、歴史・文化・環境を学ぶ場や健康増進を図る場などとして利活用されることを目標とする。

河川環境の整備と保全に関する目標

○河川整備にあたっては、現況の土砂移動形態等に対して最大限に配慮し、河川環境の保全・創出に努める。
○動植物の生息・生育・繁殖環境の連続性を確保するため、瀬・淵などの流水の変化、砂礫や・砂泥などの河床材料の保持、適正な植生管理などに配慮し、河川が有する自然の営力を活用して河川本来の多様な動植物が生息・生育・繁殖している水辺環境の保全・創出に努める。
○特定外来生物については、学識者や関係機関と連携し、外来生物被害予防3原則(入れない・捨てない・拡げない)の普及に努める。
○磐田市が平成29(2017)年3月に策定した第２次磐田市総合計画に基づき、まちの将来像として掲げる「たくさんの元気と笑顔があふれるまち　磐田」を目指し、「豊かな自然環境を将来の世代まで継承する」ことを目標とする。

流域の概要

流域面積	約19.7㎢
幹線流路延長	約10km
流域内人口	約1.1万人（R4時点磐田市統計資料）

治水に関する現状と課題

【現状と課題】

○一雲済川では流下能力の不足により洪水被害が度々発生しており、中でも大きな被害をもたらしたのは、昭和49(1974)年７月洪水（七夕豪雨）と平成10(1998)年９月洪水（台風第７・８号、秋雨前線）である。
○その後、大きな被害は発生していなかったが、平成26(2014)年10月洪水（台風第18号）および令和４(2022)年９月洪水（台風第15号）で、上野部川沿いで被害が発生した。
○このうち、令和４(2022)年９月洪水（台風第15号）は、昭和49(1974)年７月洪水（七夕豪雨）に次ぐ大災害となった。

洪水名	降雨要因	総雨量(mm)	浸水被害 床上(戸)	浸水被害 床下(戸)	浸水被害 浸水面積(ha)
昭和49年7月	梅雨前線及び台風第8号	270.5	351	296	524
平成2年9月	－	61.0	－	12	12
平成3年9月	－	212.5	－	－	8
平成9年11月	台風第7号	134.0	－	－	11
平成10年9月	秋雨前線及び台風第7・8号	195.0	28	185	214
平成26年10月	台風第18号	273.0	8	21	1.4
令和4年9月	台風第15号	373.0	179	199	286
令和5年6月	台風第2号	396.5	3	9	0.8

【H10.9：掛下地先】

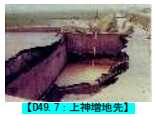
【H10.9：新開地先】

【R4.9：上野部地区】

【R4.9：下野部地先】

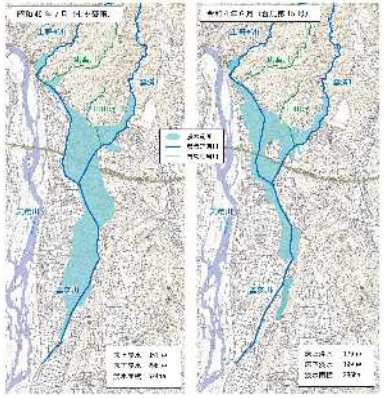
浸水被害発生状況

【D49.7：掛下地先】


【D49.7：上神増地先】

【H26.10：上野部地区】

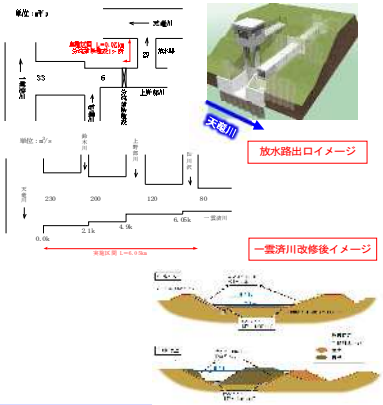
○一雲済川は、平成14(2002)年８月に策定した当計画に基づき、天竜川合流点付近～堀川川田川沢合流点付近までの6.05km区間を対象に、相対的に流下能力の低い区間から順次策定的な改修工事を実施している。
○現在、計画区間の中流部に位置する敬兵衛橋付近や上流部に位置する永代橋～上野部川合流点付近において未改修区間が残されており家屋浸水被害の早期軽減・解消に向け、引き続き整備を推進する必要がある。
○上野部では、家屋浸水被害のあった平成26(2014)年10月洪水に対する被害軽減対策として、中流部において調査工等の暫定的な対策を実施したが、これまで工事実施基本計画や河川整備計画に基づいた河川改修を行っていない。
○上野部川では、河川に面して家屋が立ち並んでいることなどから、抜本的な治水対策として河道改修を行うことが極めて困難な状況にある。そのため、洪水調節施設による対策を講じる必要がある。



河川整備の実施に関する事項

河川名	区分	区間又は地点	延長	主な整備内容
一雲済川	河川改修	0.0km（天竜川合流点）～6.05km地点	6.05km	引堤、護岸整備、橋梁整備
上野部川	放水路	磐田市上野部地先の上野部川右岸～天竜川	－	放水路、樋門、分流施設

【河川整備計画の主要な整備箇所】



【河川の維持】

一雲済川流域において、洪水による被害の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全がなされるように、河川の特性を踏まえた維持管理を磐田市や地域住民、河川愛護団体、企業等と連携しながら適切に行うものとする。
(1)　堤防及び護岸等の維持管理
(2)　許可工作物の維持管理
(3)　河道内堆積土砂及び植生等の維持管理
(4)　雨水貯留機能の維持
(5)　水量・水質の監視等
(5)　河川環境の整備と保全

【その他総合的な取組み】

○一雲済川流域において、整備目標を上回る洪水や整備途上段階での施設能力を上回る洪水が発生した場合においても、できるだけ被害の軽減が図られるよう、関係機関や流域住民との連携を強化し、地域の防災力の向上を図る取組を推進する。
○河川への流出量増加による災害の発生や土砂・流木の流出による河道閉塞や施設損傷を防ぐため、関係機関との連携強化に努める。

～総合的な被害軽減対策の取組～
○「危機管理型ハード対策」の推進
○河川情報の提供
○水災害リスク情報空白域の解消

～流域との連携、流域における取組への支援に関する事項～
○「水防災意識社会」の再構築
○あらゆる関係者による「流域治水」への転換
○地域住民との連携、地域活動への支援

【サイポスレーダー】

【流域治水プロジェクト、水防災意識社会再構築ビジョン】

河川の利用及び水利用に関する現状と課題

【現状と課題】

○一雲済川流域の水利用は、船明ダム完成を契機に農業用水、工業用水、上水道ともに安定した給水が行われており、これまで渇水の記録は無く、近年においても渇水による被害も生じていない。
○河川整備計画の策定に当たり、地域住民や河川愛護団体の代表者などからなる「一雲済川川づくり懇談会」を開催し、『豊かな自然と歴史・文化のふるさと　みんなで行こう一雲済川』というキャッチフレーズのもと、３つの地区を対象にテーマに沿った拠点整備を行うものとし、これまでに親水公園ゾーン及び水遊びゾーンの２地区で整備が実施されている。

○今後とも河川の適正な水利用に努める必要がある。
○河川空間利用については、当初計画策定から年月が経ち、近年の高齢化による人口減少などの社会状況の変化や需要観の多様化も進み、持続可能な取り組みを後世に引き継ぐことが課題となっている。

河川環境に関する現状と課題

【現状と課題】

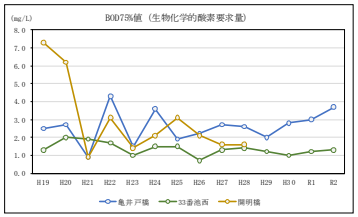
○類型指定はされていないが、一雲済川上流では概ねⅡ類件、上野部川及び一雲済川下流では概ねA類型程度である。
○一雲済川上流域（起点～田川沢合流点付近）は、緑豊かな森林が広がり、優れた森林景観や渓流の中を清流が流れており、中下流域に比べ、急勾配で落差工が多い河道形状となっている。
○河床材料は、石礫が主体で一部は岩盤となっており、カワニナ、サワガニ、モクズガニなど水のきれいな環境を好む底生動物が確認されているほか、点在する淵ではカワムツ（静岡県RDB 要注目種(N-Ⅱ)）が、淵の周辺から平瀬にかけての緩流域にはカワヨシノボリが確認されている。
○一雲済川の上流部に合流する田川沢沿川では、ヤリタナゴ（静岡県RDB 絶滅危惧Ⅰ A類(CR)）の産卵母貝となるマツカサガイ（静岡県RDB 絶滅危惧Ⅰ A類(CR)）の生息が確認されているが、周辺には外来種となるタイリクバラタナゴが多数確認されており、生息が期待されるヤリタナゴとの競合が危惧されている。
○田園地帯を流下する中下流域（田川沢合流点～天竜川合流点）は直線的な河道形状となっているが、河道内の水際部には、オギ群落を中心に中流域ではヨシ群落が、下流域ではヤナギタデ群落やミゾソバ群落などの植生が繁茂するなど、豊かな水際環境を形成している。
○一方、周辺には特定外来生物となるオオキンケイギクやオオフサモのほか、33番池付近においてアレチウリが確認されており、在来種への影響が懸念されている。
○上野部川では、水路合流部のヨシ類が繁茂する環境において、トウカイコガタスジシマドジョウやミナミメダカの重要種が確認されているほか、在来種としては、オイカワ、コイ、ギンブナ等が確認されている。
○一方、特定外来生物であるオオクチバスが確認されており、上野部川においても一雲済川本川と同様に在来種への影響が懸念されている。

○流域の大半で下水道整備が完了したものの、上野部川の上流域においては未整備区域が残されており、更なる水質改善に向けた整備促進が求められる。

【一雲済川流域の魚類】

コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、オイカワ、カワムツ、ヌマムツ、ウグイ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、ニゴイ、ドジョウ、カラドジョウ、トウカイコガタスジシマドジョウ、ギギ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、オオクチバス、ウツセミカジカ（陸海回遊型）、ヌマチチブ、カワヨシノボリ、シマヨシノボリ、スミウキゴリ、カムルチー
赤字：重要種、青字：外来種

【タイリクバラタナゴ】
環境省 重点対策外来種

【オオクチバス】
特定外来生物

【一雲済川流域ＢＯＤの経年変化】